

平成24年度 鳥取工業高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

昭和14年に創設され、70年を越える歴史と伝統を誇る工業高等学校であり、理数工学学科と工業学科を設置し、鳥取大学はじめ多くの国立大学・私立大学に卒業生を送り出す一方、工業学科の特色を生かした進路指導を進め、県内県外の産業界に多くの卒業生を輩出している。

鳥取工業高等学校は、今年度より重点目標を3点に絞り、その重点目標（確かな学力の育成、豊かな人間性の育成、キャリア教育の充実と生徒の進路実現）に向け、「ものづくり教育」を進め、5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の徹底と「あさひ」（挨拶・作法・人の話を聞く）の徹底を図るとともに、自然科学や工業技術方面で活躍する専門的な能力・問題解決能力を持った人材育成を図っている。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 教育目標の達成に向けて教職員がのびのびと勤務している様子がうかがえて活気のある学校という印象を受けた。教職員の適性・状況に応じて分掌配置を行い、主任制が適切に機能している。今後の学校運営が組織として一層充実するよう、管理職の指導を期待する。
- ② 理数工学科を中心に土曜日補習を実施したり、授業に集中していない生徒への指導を適宜行ったりして、個に応じた補習・指導を進めている。また、インターンシップ・鳥工版デュアルシステムの実施など就職希望者への手厚い進路指導や大学訪問など高大連携を充実させることで進学希望者への意識向上の取り組みを進めている。
- ③ 中高連携を充実させたり、地元地区との懇談会活動を推進したりするなど校外への働きかけはたいへん活発である。また、学校関係者評価委員等の意見・提言に丁寧に応えたり、今回の第三者評価委員による1回目の学校訪問で改善を指摘された教育環境の整備については迅速に改善したりするなど、学校が外部からの指摘や意見を大切にしていることはよくうかがえた。今後も校外の意見に耳を傾け、校外連携を充実させ、学校運営の円滑な推進を図ることを期待する。
- ④ PDCAサイクルを機能させ、前年度の反省を踏まえた改善を実践している。例えば進路指導では従前実践している取り組みに加え、今年度は面接対策を強化するなど「実」のある変革が実現できている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 管理職は教職員の意見に耳を傾け、声かけ等を頻繁に行っているが、教職員の中には新たな学校重点目標を把握できていない者もあり、年度当初に限らず、さまざまな場面で学校重点目標の周知徹底を進めるべきである。一方、公開授業や研究授業の実施回数・参加者ともに少なかったり、生徒の自宅学習の時間が少なかったりするという実態がある。重点目標にもあげられている確かな学力を生徒に身につけさせるため、授業改革に向けた教職員の意識変容を図り、さまざまな場面で生徒が主体的に取り組むような仕掛けづくりを進める必要がある。
- ② 各担当分掌の中で「手順書（マニュアル書）」の存在が不明確である。学校重点目標実現に向けて、それぞれの担当者が自分では理解できている業務内容も、他者から見てもわかりやすく、しかもその業務遂行を進める上で必要な「手順書」の意義が浸透していないので、どうしても特定の担当者（担当分掌）任せになっている。それらの業務を見直し、組織化円滑化を図るためにも早急に各業務についての「手順書」を作成する必要がある。また、旧文書と最新版の明確な区別を図る等、適切な文書管理等を進めることが重要である。
- ③ 各種アンケートを実施し、授業改革や改善を図ろうとしてはいるものの、例えば学力分析が不十分であったり、アンケートの質問項目にも工夫が必要なものがあつたりして、形だけのアンケートになっているのではないかと危惧する。今後はアンケート項目（内容）の改善・精選が求められるとともに、アンケート分析を受け、学校重点目標に照らし合わせ、実効性のある具体的改善方策を提案し、即時実行していただくことを期待する。